

三番町閑話

31

～さんばんちょうかんわ～

昭和から平成に変わるころ、友人から誘われ、ゴルフを始めた。

1980年の青木功VSジャック・ニクラウスの全米オープン『バルタスロールの死闘』をテレビで見えてはいたが、自分がこれほどゴルフ好きになるとは思ってもみなかった。ましてや後年、その青木功プロと写真撮影の機会を得るとは世の中分らないものである。

東京税理士会本所支部に入会し、いろいろ同好会がある中、囲碁、将棋はどうも不得手で、生来スポーツ好きの私は、「研球会」に入り、ゴルフ熱に拍車をかけた。

ゴルフ事始め

早く上手になりたくて、ゴルフスクールに通ったり、ラウンドレッスンを受けたり、家でもハーフスイングショット、パターアプローチの練習をした。その甲斐あってシングルになれた。まさに好きこそものの上手なれである。

本紙第3217号の藪先生が書かれているように、ゴルフを通じて、諸先輩や後輩そして顧問先と交流し、時には童心に返ってプレイしている中で薫陶を頂くことも多い。

また、お互いに性格や考えなどが分かることもあり、アフターゴルフの会話も楽しい。

願わくば、健康を維持し、将来エイジシュートを達成したいと思っている。

税理士 宮本 雄司 (日本税理士会
連合会 理事)